

# サプライチェーンのCO<sub>2</sub>排出量

## ～ 算定と活用について ～

2016年2月9日

日本ハム株式会社  
コーポレート本部 CSR推進部



# 本日のテーマ

## 1. ニッポンハムグループのご紹介

1) 事業の概要

2) ニッポンハムグループが大切にしていること

## 2. ニッポンハムグループの環境活動

1) 環境宣言・環境方針

2) ニッポンハムグループの環境負荷

## 3. サプライチェーンのCO<sub>2</sub>排出量

1) スコープ3排出量

2) サプライチェーンのCO<sub>2</sub>排出量削減に向けて

# ニッポンハムグループのご紹介



ハム・ソーセージ



チーズ



加工食品



フリーズドライ



食物アレルギー対応食品



冷凍食品



天然系調味料



食肉



健康食品



水産



食品検査



乳製品



ベンダー事業



# ニッポンハムグループの概要

【設立年月日】	1949年5月30日
【資本金】	24,166百万円（2015年3月31日現在）
【売上高】	1,212,802百万円（2015年3月、連結）
【事業所】	自社農場：159ヶ所、製造拠点：99ヶ所 物流・営業拠点：360ヶ所、研究所：4ヶ所 （2015年4月、連結）
【従業員数】	28,245人(2015年3月、グループ合計)
【事業構成比】（2015年3月、連結）	※金額ベース



# ニッポンハムグループが大切にしていること



## 生命(いのち)の恵みを大切にする

牛・豚・鶏といった生命を、  
自分たちの手で育てている日本ハムグループ。  
人が生きるために欠かせないその恵みを、大切にしています。



## 品質に妥協しない

食を提供する企業として、  
その品質に妥協はしません。  
安全・安心でおいしい食品づくりに取り組んでいます。



## 食の新たな可能性を切り拓く

食から広がるさまざまなフィールドで、  
知恵と技術を活かし、食の新しい可能性に挑戦し続けます。



## 「食べる喜び」を提供し、 楽しく健やかな暮らしに貢献する

これからもずっと、健やかな笑顔が続くように。  
食の喜びや大切さを伝え、楽しく健やかな暮らしを応援します。

# 企業理念・経営理念

## 企 業 理 念

1. わが社は、「食べる喜び」を基本のテーマとし、時代を画する文化を創造し、社会に貢献する。
2. わが社は、従業員が真の幸せと生き甲斐を求める場として存在する。

## 経 営 理 念

1. 高邁な理想をかけ、その実現への不退転の意志をもって行動する。
2. 人に学び、人を育て、人によって育てられる。
3. 時代の要請に応えて時代をつくる。
4. 品質・サービスを通じて、縁を広げ、縁あるすべての人々に対する責任を果たす。
5. 高度に機能的な有機体をめざす。

# 本日のテーマ

## 1. ニッポンハムグループのご紹介

- 1) 事業の概要
- 2) ニッポンハムグループが大切にしていること

## 2. ニッポンハムグループの環境活動

- 1) 環境宣言・環境方針
- 2) ニッポンハムグループの環境負荷

## 3. サプライチェーンのCO<sub>2</sub>排出量

- 1) スコープ3排出量
- 2) サプライチェーンのCO<sub>2</sub>排出量削減に向けて



# 環境宣言

21世紀を臨むに際して、最も重要な課題の一つが環境問題です。  
今日、私達は地球という環境が作り出した自然の恵みと、文明の恩恵を十分に享受し、豊かな社会に暮らしています。  
しかし、この豊かさを支えるために、膨大な資源やエネルギーが利用され、消費され、破棄されています。その結果、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊といった人類の生存基盤を脅かすような地球環境問題が論議されるようになってきました。  
私達が行なう通常の事業活動や日常生活においても、地球環境に配慮した行動が求められます。**私達は、私達の子供達に美しい地球を残さなければなりません。**  
日本ハムグループは「幸せな食創り」を基本テーマとし、世界中の人達に縁を拡げ、すべての人達が健康で幸福な生活をおくることに貢献してきました。  
私達、日本ハムグループが、この環境問題に取り組むことは、企業としての責任であり使命であると思います。ここに、日本ハムグループは、**自然のいとなみを尊重し、企業活動において環境との調和、環境へのやさしさを実現してゆくことを経営課題の一つに揚げます。**環境問題への理解を深め、一人一人が、業務の中でまた日常の生活の中で環境へのやさしさを実践して頂くことを日本ハムグループの全員に対して要望致します。

1998年4月

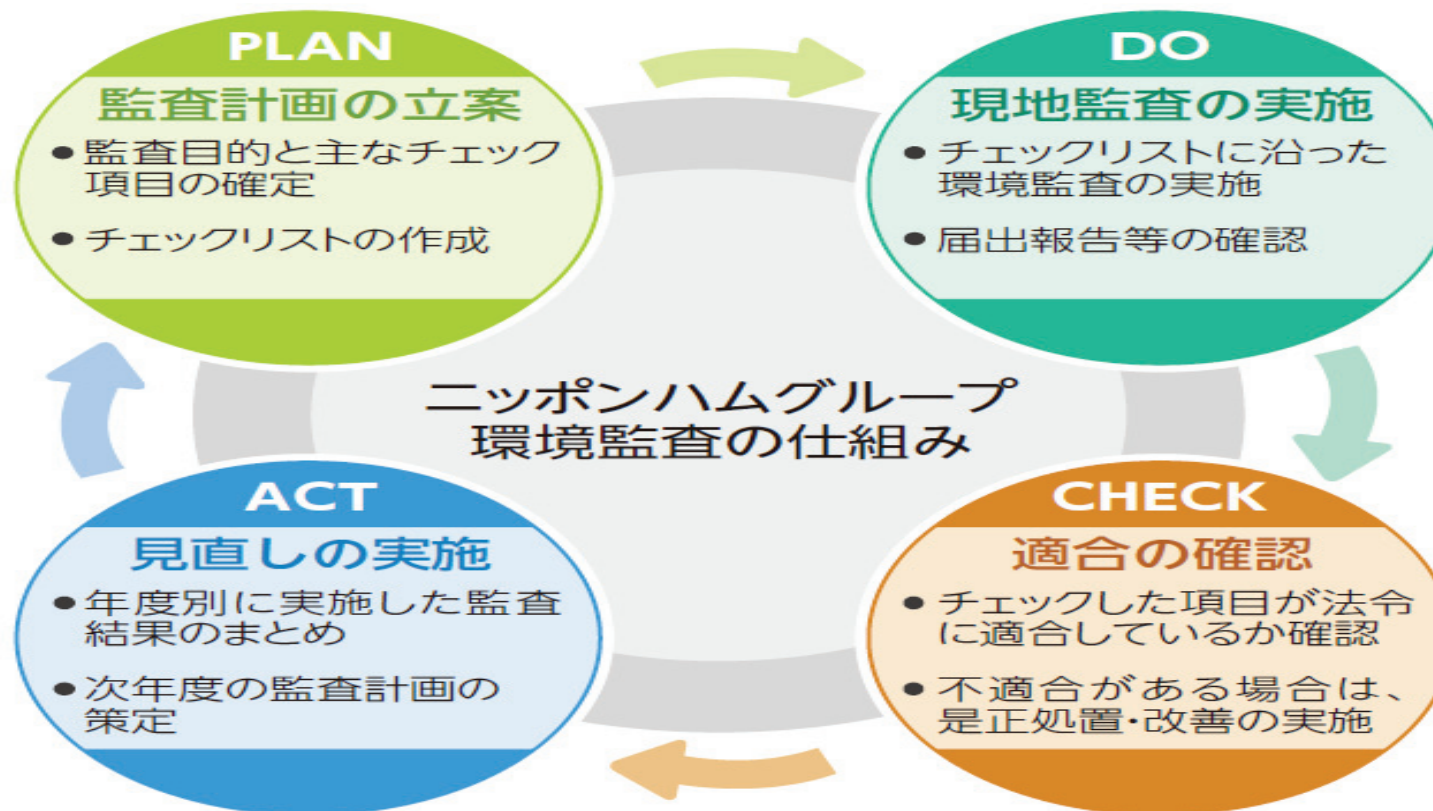


日本ハムグループは、自然の恵みに感謝し、持続可能な社会の実現に向けて、環境と調和の取れた企業活動を推進します。

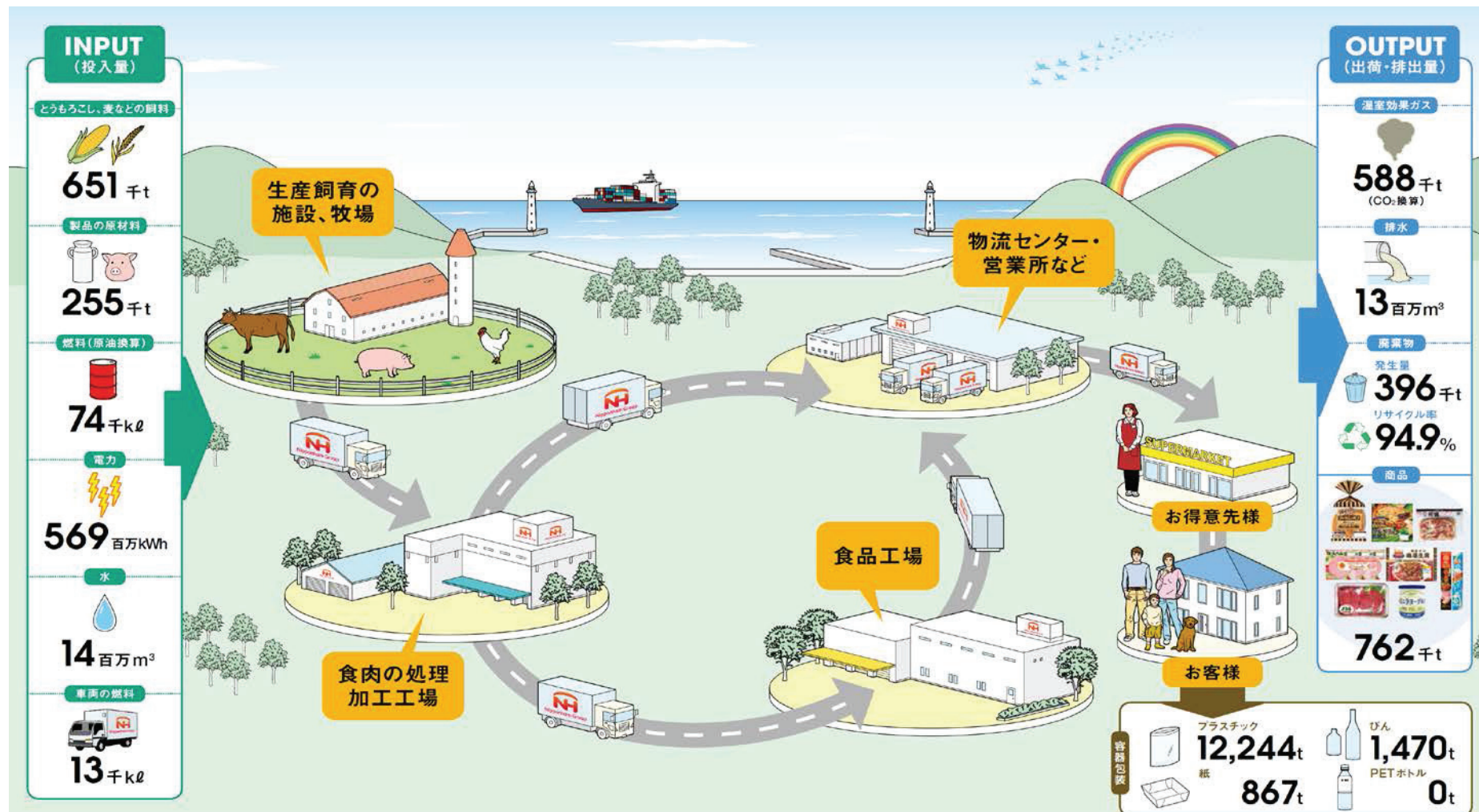
1. 商品・サービスへの環境配慮  
環境に配慮した商品の開発とサービスの提供に努めます。
2. 環境パフォーマンスの向上  
省エネ・省資源・環境負荷低減に努めます。
3. 継続的改善  
環境マネジメントシステムを適切に運用し、継続的改善に努めます。
4. 法令の遵守  
関連する法令を遵守するとともに、必要に応じて自主基準を定め、環境保全水準の向上に努めます。
5. 社会との連携  
地域社会とのコミュニケーションを図り、連携して環境活動を実施します。

# 環境監査

事故が発生する確率を低下させるため、専門部署による環境監査を実施しています。環境監査は、事故が発生した際に、環境への影響度が大きい工場・農場を中心に実施しています。



# 環境負荷の把握 -グループ全体-





# 環境負荷の把握 -事業所ごと-

▶ 生産飼育の施設や牧場



▶ 加工食品の製造



▶ 営業所、物流拠点、本社・支社、研究所



事業所ごとに、担当者が月間のエネルギー使用量や廃棄物発生量、車両燃料使用量などを取りまとめ、データベースに入力。

電力使用量

燃料使用量

水使用量

車両燃料使用量

廃棄物量

ネットワーク

ECOハート

ECODライブ

データを取り纏め、改善度や排出量に換算

【2009年度 事業所別環境負荷データ】

事業所	電力使用量 (kWh)	燃料使用量 (kg)	水使用量 (m³)	車両燃料使用量 (L)	廃棄物量 (kg)
1	12345	5678	9012	3456	7890
2	23456	6789	0123	4567	8901
3	34567	7890	1234	5678	9012
4	45678	8901	2345	6789	0123
5	56789	9012	3456	7890	1234
6	67890	0123	4567	8901	2345
7	78901	1234	5678	9012	3456
8	89012	2345	6789	0123	4567
9	90123	3456	7890	1234	5678
10	01234	4567	8901	2345	6789
11	12345	5678	9012	3456	7890
12	23456	6789	0123	4567	8901
13	34567	7890	1234	5678	9012
14	45678	8901	2345	6789	0123
15	56789	9012	3456	7890	1234
16	67890	0123	4567	8901	2345
17	78901	1234	5678	9012	3456
18	89012	2345	6789	0123	4567
19	90123	3456	7890	1234	5678
20	01234	4567	8901	2345	6789

【日本ハムグループ CO2排出量】

事業所	CO2排出量 (t)	CO2排出量 (t)	CO2排出量 (t)	CO2排出量 (t)	CO2排出量 (t)
1	12345	5678	9012	3456	7890
2	23456	6789	0123	4567	8901
3	34567	7890	1234	5678	9012
4	45678	8901	2345	6789	0123
5	56789	9012	3456	7890	1234
6	67890	0123	4567	8901	2345
7	78901	1234	5678	9012	3456
8	89012	2345	6789	0123	4567
9	90123	3456	7890	1234	5678
10	01234	4567	8901	2345	6789
11	12345	5678	9012	3456	7890
12	23456	6789	0123	4567	8901
13	34567	7890	1234	5678	9012
14	45678	8901	2345	6789	0123
15	56789	9012	3456	7890	1234
16	67890	0123	4567	8901	2345
17	78901	1234	5678	9012	3456
18	89012	2345	6789	0123	4567
19	90123	3456	7890	1234	5678
20	01234	4567	8901	2345	6789

# 環境負荷をより小さな単位で捉える

集計・公表する「環境負荷量」はグループ全体や事業単位ごとに合計した数値が多くを占めています。

素朴な疑問・・・

- ・ 作業を工夫して廃棄物を減らすとどうなるのだろうか？
- ・ 商品のパッケージを変更するとどんな影響があるのだろうか？
- ・ エコ・ドライブするとどれだけ環境負荷が減るのだろうか？



**作業ごとや商品ごとなど、より小さな単位で活動の結果(成果)を捉えることが必要**

# 商品の環境負荷の把握 -1

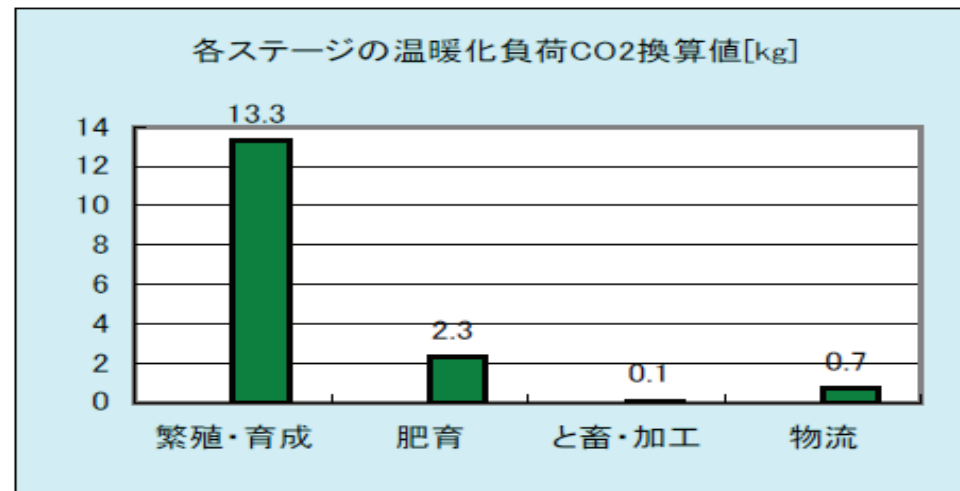
牛肉1kgを生産する際に発生する温室効果ガスは、約16kg。

- 繁殖・育成ステージにおける温室効果ガス発生量が約81%。
- 牛の反すうにより発生する温室効果ガス発生量が約86%。



ニッポンハムグループの牛肉  
(オーストラリア産)についての  
算定事例

ライフサイクルでの消費・排出	全ステージ合計
温暖化負荷(CO <sub>2</sub> )換算	16.4 kg
酸性化負荷(SO <sub>2</sub> )換算	0.003 kg
エネルギー消費量	15.7 MJ



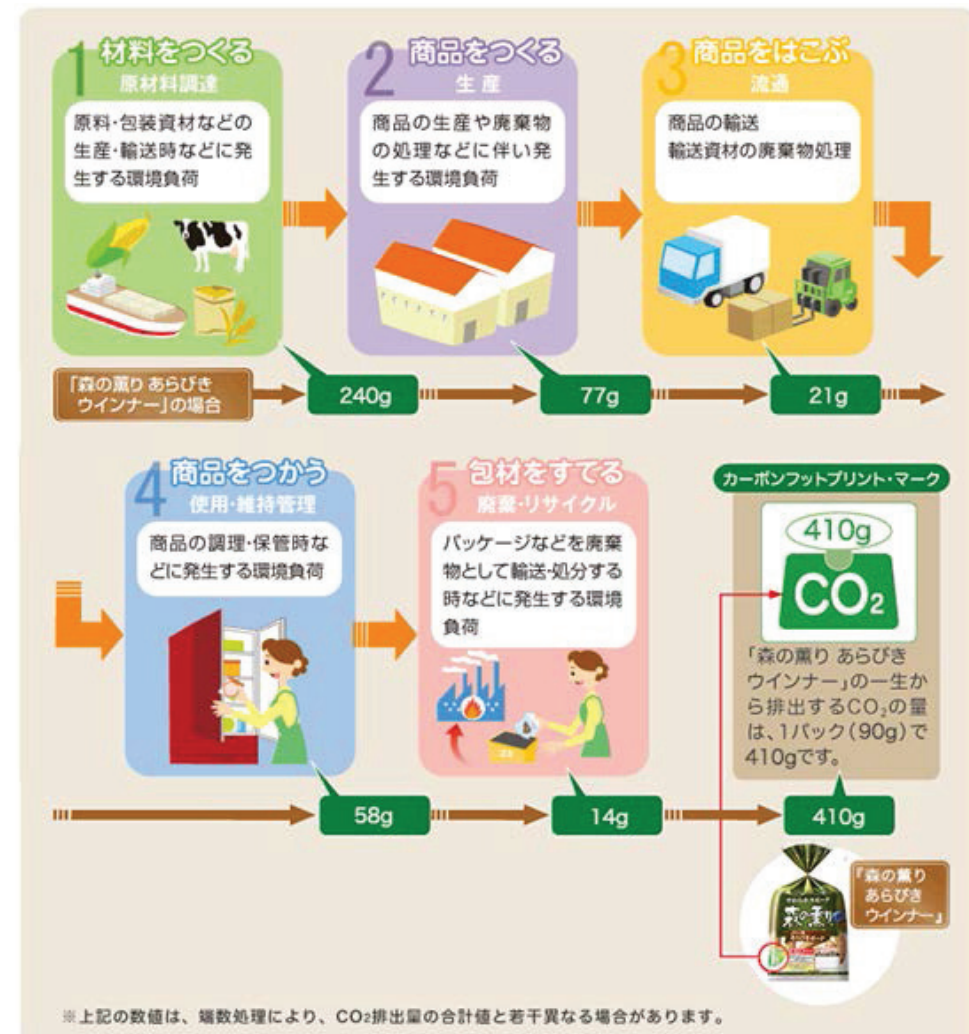


## 商品の環境負荷の把握 -2

商品の原材料調達から商品の容器包装が廃棄・リサイクルされるまでの工程におけるCO<sub>2</sub>排出量を計算する「カーボンフットプリント」。

日本ハムでは、「森の薫り」ハム・ソーセージなどの商品でCO<sub>2</sub>排出量を把握し各工程で環境負荷の低減を進めています。

※右図の値は、2016年1月時点のものです。



# 本日のテーマ

## 1. ニッポンハムグループのご紹介

- 1) 事業の概要
- 2) ニッポンハムグループが大切にしていること

## 2. ニッポンハムグループの環境活動

- 1) 環境宣言・環境方針
- 2) ニッポンハムグループの環境負荷

## 3. サプライチェーンのCO<sub>2</sub>排出量

- 1) スコープ3排出量
- 2) サプライチェーンのCO<sub>2</sub>排出量削減に向けて

# スコープ3算定の背景・目的

## スコープ3算定の背景

- 商品のLCA算定において、自社の操業範囲でのCO<sub>2</sub>排出量が比較的小さいことが分かった。
- 環境活動においても、サプライチェーンを包括した取り組みやレポーティングが求められている。

## スコープ3算定の目的と情報開示

- 当社グループがサプライチェーン全体に対して、どのような取り組みを実施すべきか検討材料の一つとする。  
⇒何を実施するか、何が実施できるのか
- CDPやDJSIなどの社外評価に対応することとも必要であるが、幅広いステークホルダー(消費者、取引先など)に対して、情報開示とともに、その意味を説明する。

# ニッポンハムグループのマテリアリティ

ニッポンハムグループは、企業理念を経営の根幹とし、ステークホルダーとの対話を大切にしながら、コンプライアンスを基盤に5つの重要課題を中心としてCSRを進めてまいります。

そして、社会とニッポンハムグループが共にこれらの課題に取り組むことが、持続可能な社会の構築につながると考えています。



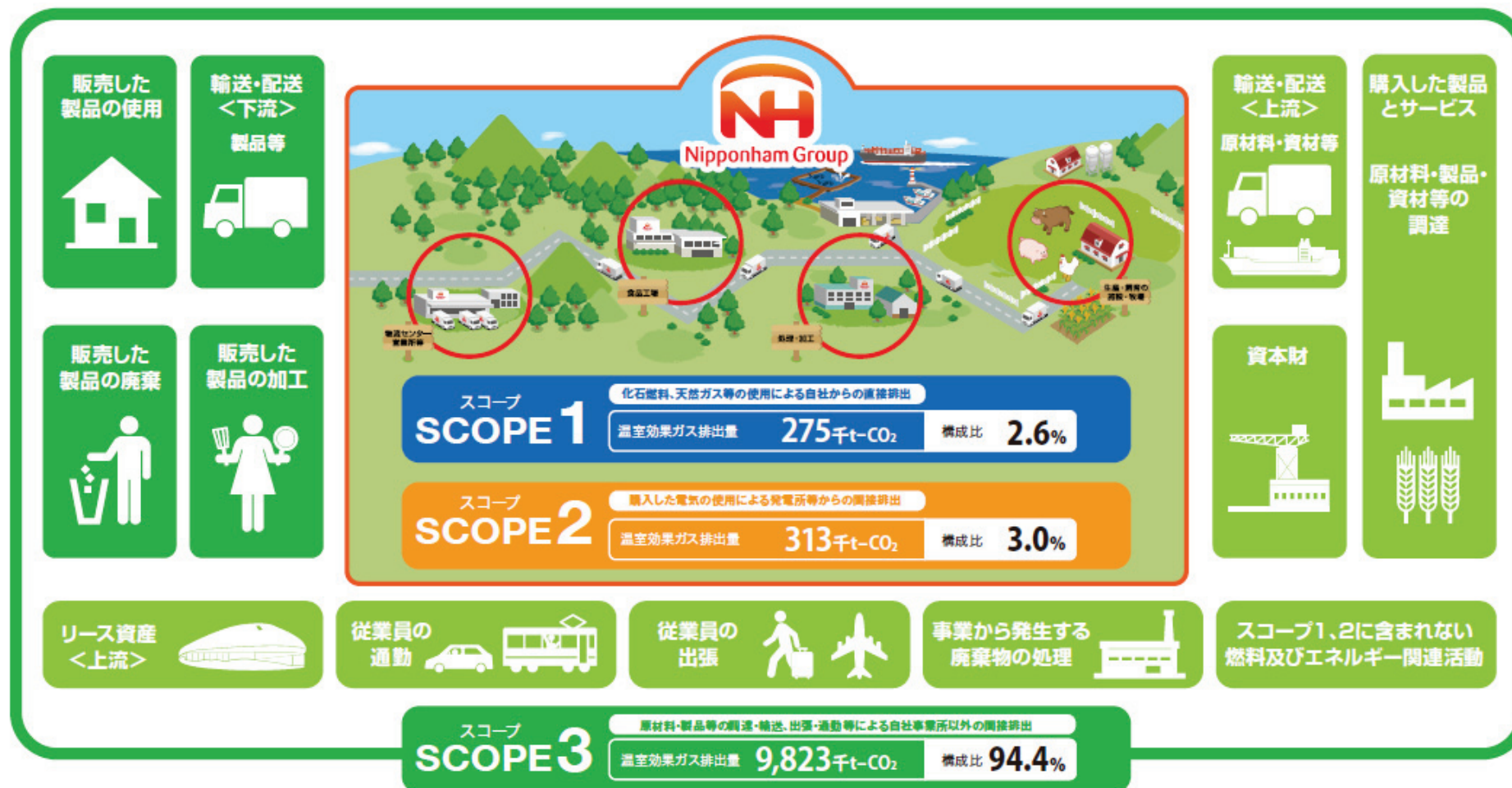
# ニッポンハムグループのスコープ3

カテゴリー	GHG排出量(t)	割合(%)
1.購入した製品とサービス	8.67E+06	88.3%
2.資本財	1.25E+05	1.3%
3.スコープ1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	4.36E+04	0.4%
4.輸送、配送（上流）	5.77E+05	5.9%
5.事業から出る廃棄物	1.86E+04	0.2%
6.出張	6.36E+03	0.1%
7.雇用者の通勤	5.92E+04	0.6%
8リース資産（上流）	1.72E+03	0.0%
9.輸送、配送（下流）	1.25E+05	1.3%
10.販売した製品の加工	4.77E+04	0.5%
11.販売した製品の使用	3.07E+04	0.3%
12.販売した製品の廃棄	1.17E+05	1.2%
13.リース資産（下流）	該当なし	
14.フランチャイズ	該当なし	
15.投資	該当なし	
合計	9.82E+06	100.0%

上記の排出量は、概数によるものもあり、今後、変更する可能性があります。



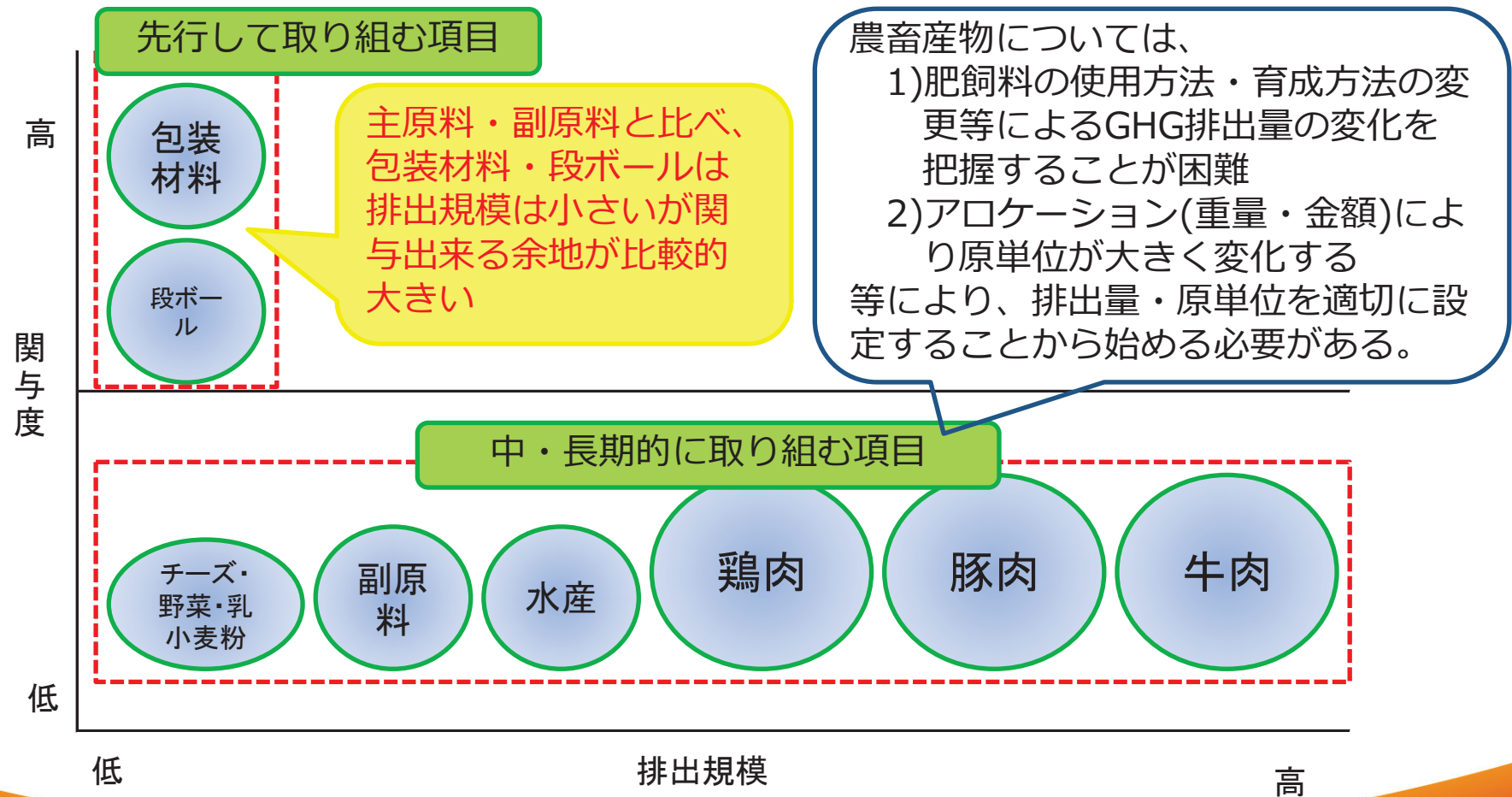
# ニッポンハムグループのスコープ1・2・3





# カテゴリー1の分析

「購入した製品・サービス」の活動項目をGHG排出規模と管理のしやすさの観点から分析しました。



# カテゴリー1の削減に向けて -1

「購入した製品・サービス」の活動項目の中から、容器包装に注目し、軽量化によりどの程度の削減につながるか算定。

- 1)包装フィルムの薄肉化  
- もう切ってますよ！焼豚 -



住友ベークライト株式会社様との協働により底材のフィルムの薄肉化を実施。

- 2)トレイの軽量化  
- 中華名菜 -



トレイの薄肉化を継続して進め、軽量化を実施。

## カテゴリー1の削減に向けて -2

包装材料の軽量化により、スコープ3の他のカテゴリーへの影響度を確認しました。

カテゴリー	影響度	効果
カテゴリー1	あり	資源投入量が減ることにより削減効果が見込まれる
カテゴリー2	なし	資本財への影響なし
カテゴリー3	なし	自社設備でのエネルギー使用量へ影響なし
カテゴリー4	あり	輸送・配送重量が減ることにより削減効果が見込まれる
カテゴリー5	なし	自社から排出される廃棄物には影響なし
カテゴリー6	なし	出張には影響なし
カテゴリー7	なし	通勤には影響なし
カテゴリー8	なし	リース資産には影響なし
カテゴリー9	あり	輸送・配送重量が減ることにより削減効果が見込まれる
カテゴリー10	なし	製品の加工には影響なし
カテゴリー11	なし	製品の使用には影響なし
カテゴリー12	あり	焼却場までの輸送重量と焼却重量が減ることにより削減効果が見込まれる

# カテゴリー1の削減に向けて -3

焼豚は2013年度、中華名菜は2007年度を基準年度(各商品の包装材料・トレイ変更前の年度)として

- ①基準年度の販売パック数と基準年度の包装材料・トレイ重量からのGHG排出量
- ②2014年度の販売パック数と基準年度の包装材料・トレイ重量からのGHG排出量
- ③2014年度の販売パック数と2014年度の包装材料・トレイ重量からのGHG排出量

から経年の排出量で比較しました。

資源投入量、輸配送重量、廃棄重量の減少によりGHG排出量削減効果が見込まれる4カテゴリーを算定すると、2014年度の削減結果(上記②と③の比較)は・・・

**4カテゴリー合計で1,550t-CO<sub>2</sub>の削減**  
**(内訳 焼豚 192t-CO<sub>2</sub>、中華名菜 1,358t-CO<sub>2</sub>)**

# 持続可能な社会の構築に向けて

- ★「持続可能な社会」の構築に向けて、自社の排出量を削減することはもちろんのこと、サプライチェーン全体を考え行動することが求められる。
- ★1社単位では小さな削減であっても、多くのステークホルダーが関わることにより、大きな削減効果をもたらすことを念頭に、協働の取り組みを進める。



リーフウォーク稲沢（愛知県）において実施した環境イベント（2015年3月）

## 環境イベントの協働

日本ハム（株）は、「NPO法人 ごみじゃぱん」やお客様・お取引先様とともに環境イベントに出展しています。その中でお客様からいただく商品やご意見の分析・検証を行い、商品・サービスの改善に役立てています。

TOPICS

当社グループ「社会・環境レポート2015」より引用

ご清聴ありがとうございました